

解 答

問1 (あ) 太平洋戦争の空襲をさけるため、都市部の小学生が集団で地方に避難すること。
(い) 高齢者や障がい者を含め、すべての人が生活していくうえでの障壁をなくすこと。

問2 (う) 平塚らいてう：大正時代を中心に、女性の地位の向上や参政権を求めて活動した。
(え) 雪舟：室町時代に明で絵を学び、帰国した後に水墨画を大成した。

問3 一人ひとりがどの程度理解できているかがわかる絶対評価と異なり、相対評価はほかの人と比べることによって、クラスなどの集団の中での位置づけがわかる。

問4 多くの人々が百姓で、稻作をはじめ、自然を相手にする仕事をしていたから。

問5 解答例) 中国が、中華民国を意味するチョンホワ民国と示されている。冷戦が始まり、アメリカは社会主義の中華人民共和国を認めておらず、占領下の日本もその影響を受けていたから。

問6 解答例) 記号 ア 変化 高度経済成長期が終わり、大量生産・大量消費から、限られた資源を有効に利用する社会になった。

問7 あまり工業が発達していなかった地域での産業の拠点となり、経済の地域的な格差をなくす役割。

問8 林業で働く人や木材の生産量が大きく減って、産業としての位置づけが低下したから。
単なる産業としての林業でなく、環境保全に森林が果たす役割などが重視されるようになったから。

問9 会社で働く夫の収入で家庭を支えることができるようになり、妻は働くよりも家庭で家事や育児に専念するようになったから。

問10 不景気によるリストラなどで夫が職を失う一方、妻の働く家庭が増えた。
高齢化がすすみ、夫と妻がともに働く家庭が増えた。

問11 (1) 解答例) おじいちゃんは将来兵士となることを前提に体練などを習った。一方、父さんは、日本の高度成長を背景に各地の産業などを学んだ。
(2) 解答例) 決まった日時に登校し、同級生とともに教科を学んで行事を体験することは、昔も今も変わらない。これは、基本的な生活習慣や、社会的な集団の中の一員として生きていくすべての子どもたちに身につけさせることができることが、学校に求められてきた役割の一つだからである。

解 説

問1 (い) バリアフリーは、障害者や高齢者にとっての生活上の障壁となるものを取り去ることです。そのような人たちに対する偏見をなくす「心のバリアフリー」も実践していかなくてはなりません。

問2 (う) 平塚らいてう（雷鳥）は、1911年に青鞆社をおこし、婦人（女性）の解放を主張しました。後には市川房枝らとともに、婦人参政権運動を推進しました。雑誌『青鞆』を発刊したときの、「元始、女性は実に太陽であった」ということばは有名です。
(え) 雪舟は備中（現在の岡山県の一部）で生まれ、京都の相国寺で禅僧の修行を積みました。周防（現在の山口県の一部）などを治めていた大内氏に保護され、応仁の乱のころ、明にわたって水墨画を学びました。「天橋立図」などの作品が、国宝に指定されています。

問3 2ページ目の冒頭でお父さんが説明している相対評価のしくみを、どのように解答にまとめるかがポイントです。

問4 江戸時代、百姓に限らず、都市に住む町人たちも、盆と正月以外に定休日ではなく、不定期に休みを入れていたようです。現在のように一週間を7日とし、日曜を休日とするようになったのは、明治時代初頭に太陽暦を採用してからのことです。

問5 現在の地図と異なる点、例えば、「チョンホワ民国」「フランス領インドシナ」などの国名や、朝鮮半島全体が「ハース民国」と示されていることなどに注目し、戦後の歴史で学んだ知識と組み合わせて表現しましょう。

問7 すでに工業が発達していた太平洋ベルト上に位置する「工業整備特別地域」とのちがいを考えましょう。

問8 現在の教科書では、産業としての林業というよりも、森林を大切な資源ととらえ、自然環境保護と関連づける観点が見られます。

問10 表からは、夫の働いていない家族が増えていることが読みとれます。現在の日本がおかれている状況から、その裏付けとなることがらを考えます。

問11 教科の内容を学習することは、自分一人でもできます。しかし、決まった時刻に登下校し、たくさんの友人と集団で規則的な毎日を過ごすことによって、社会の構成員としての行動や意識を身につけさせることは、昔も今も、学校がもっている重要な役割の一つであると考えられます。